ここから始まる

COMMUNICATION MAGAZINE.

GET HEART

№15

2001.7



特集
「日野川の鮎」

特集

日野川の鮎

鮎はアユ科の硬骨魚で、東アジアに広く分布し、特に日本の名産になっています。国内では北海道の一部を除き全国どこでも見ることができる魚です。
和名は「アユ」で、地方名は「アイ」などがありますが、呼び名そのものの数は多くありません。しかし漢字の当て字は多く、「香魚」「年魚」「安由」「王魚」「細鱗魚」「銀口魚」など多数あることから、いかに人々の生活に密着し、親しまれている魚かうかがい知ることができます。

日野川には漁の解禁日以降、多くの人達が鮎釣りを楽しみに訪れています。人工的に種苗生産した稚魚の放流を行っている、日野川水系漁業協同組合の井藤組合長と職員の方に日野川の鮎についてお話を伺いました。


鮎

「鮎は川で卵からかえった後、稚魚期を海で過ごします。そして、海と川の水温が同じになる春先に故郷の川を遡上するのです。日野川では、例年５月上旬に天然鮎の遡上が始まります。昨年は遡上が遅かったうえ、日野川の水量が少ないことから餌不足となり、全体に小ぶりでした。今年は水量もほどよく、上流に行くほど大きくなっています。日南町では体長 25 ㎝ほどのものも捕れています。

ただ、近年全国的に産卵期が遅くなっており、遡上する鮎も時期が遅くなっています。以前は一番初めに遡上してくる鮎は大きく、縄張りも優先的にもっていたものですが、産卵時期が集中することにより密度が高くなり、鮎が小型化して漁獲対象サイズまで大きくならないものが増える傾向にありました。

このため漁協では、今まで１匹５ｇで放流していた種苗生産の稚魚を、今年は１匹 10 ｇの大型放流に切り替えました。今年は４月に 16 回の放流をしました。その効果がでて、今年は大きいものが釣れています。今までと同じ１回 200 ㎏の放流でも、個体数が少ないので１匹が得ることのできる餌の量が多くなるのです。


鮎の放流

また車尾堰（王子堰堤）で天然ものの鮎をすくい、今年は７回下流から上流にもってあがっています。６㎝ほどの大きさのものを、１回あたり 50 ㎏弱放流しています。」

「『最近鮎の元気が無い、釣りをしてもあたりも弱いし追いかけてこない』と言う話をよく聞きます。

鮎は飼育時に個体間の距離が近いと縄張り意識が低くなります。鮎の生息密度が高くなると縄張りを維持できなくなり群れで餌を取るようになるので、元気の良さは飼育履歴の影響が大きいと思われます。」

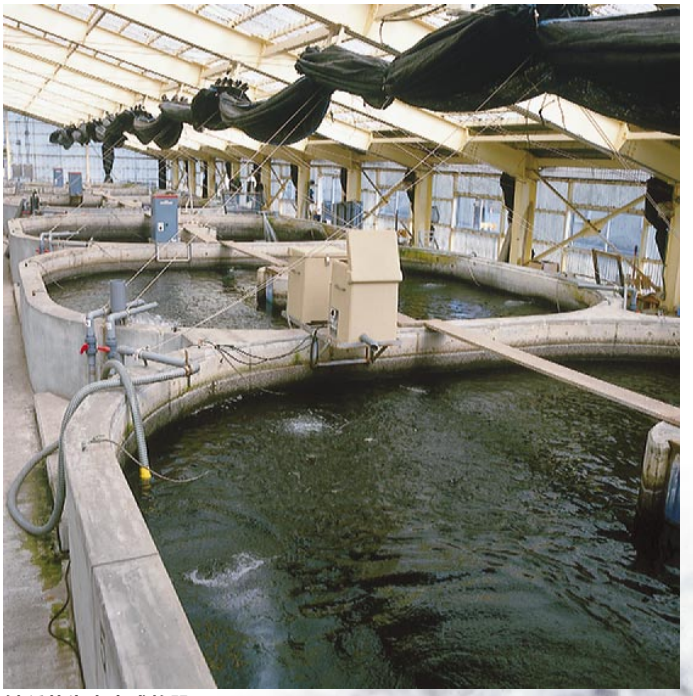
日野川で放流している稚魚は、低密度で飼育しているので縄張り意識があり、成長が良いものが多いとのこと。

鮎釣りのポイントとしては上流部の、大きな石のあるところ。釣りのポイントにシーズン最初に入った人は、縄張り意識の強い鮎を釣る事ができます。二番目三番目に入った人は縄張り意識の弱い、あまり追いかけてこない鮎を釣る事になります。

漁協では今年、全体で 150 万匹約 15ｔの放流をしています。その他 1 万匹の調査用の鮎を岸本町で放流し、成長の過程や取れた場所、放流の場所のデータがとれるようにしています。



日野川で鮎釣りをする人



鮎種苗生産育成施設

今後、鮎をとりまく状況も変化をしていくかもしれませんが、いつまでも日野川に鮎がいて欲しいものです。

鮎釣り大会が 6 月から 8 月にかけて各地で開催されます。7 月は岸本町・日野町、8 月は日南町の各地で行われるようです。一度挑戦されてみてはいかがでしょう。

遡上する鮎

人物紹介

川に親しむ

尚徳公民館長　生田（いくた）　裕宣（ひろのぶ）さん（米子市兼久）



生田　裕宣 氏

今回は日野川の支流、法勝寺川が町の中心を流れる尚徳公民館で、「子どもたちを川で遊ばせたい」と言われる館長の生田裕宣さんを訪ね、法勝寺川の思い出と法勝寺川をきれいにする会の活動、今後の夢をお話して頂きました。

「兼久堤防は昔、桜の時期には市内はもとより周辺の学校が遠足に訪れ、川原には色とりどりの服装をした子どもたちでにぎわっていました。

4 月に入ると、農家では朝から夕方暗くなるまで 4 ～ 50 頭の牛の放牧をしていました。牛が草をはみ草が大きくなる間もないので、緑地は芝を敷いたような風景が広がっていました。中州の広場では、子ども達が学校から帰るとスポーツを中心にした遊びの場になっていたんですよ。流れる水は今と違ってきれいで 5 ～ 6 月になれば鮎が日野川から多く法勝寺川へ上がって来ました。法勝寺川は子どもの水泳場所で、深みでは岸に飛び込み台を作り、飛び込み競争など夏休みは毎日のように川遊びをしたことをなつかしく思い出します。」

田植時期になれば農業用水として水を引くので、下流では水位が浅くなるために川遊びが盛ん。鮎ぶちや水にもぐり魚をヤスでついたり手でつかみ取りをしたそうです。夕方になれば川で松明（たいまつ）をかざし、魚を取り焼いて食べたのも大きな楽しみだったとか。

また秋には鮭も上がってきたので、各家庭では 4 m位の柄と大きなヤスを持ってきて川岸のよどみで鮭を捕ったなど、今とは全く違う法勝寺川の様子を話してくれました。

しかし、30 年代からの圃場の構造改善事業や宅地造成、家庭からの下排水等で水は汚れだしました。また川床が下がったことにより堤防の護岸であった石積みも崩れ川に散乱し、土砂の堆積で川幅は狭くなり砂が流され、極端に深くなった場所があります。牛の放牧も減ったので、川原は雑草が生え放題。清流豊かでのどかな川の姿は、今では想像できません。」

「今、私達はふるさと作りの基本理念を定めました。そのひとつが『悠久の時の流れの中で恵みをもたらしてきた私達の生まれ育った大地尚徳　その美しい自然を大切に守って心の安らぎとゆとりある生活空間づくりにつとめる』と、尚徳の自然との共生をうたっています。

地域の真ん中を流れる大切な川「法勝寺川」。子どもが昆虫、魚、植物などの観察をし、水遊びや子どもからお年よりまであらゆる人達が遊べ、交流・イベントのできる水辺の拠点として、また学校完全五日制に伴なう地域がかかわっていくための場所、川の楽校作りを目指しています。」

また生田さんは、法勝寺川・小松谷川をきれいにする会を発足させ年 2 ～ 3 回の清掃活動を行っているほか、青木橋から新青木橋の間を生い茂った竹雑草を地区民あげて除去作業を実施し、地区内企業の協力を頂いて川辺の整備を行っています。今後も草刈作業など川原の管理につとめながら、自然に直接触れながら体験学習のできる環境、川の楽校作りに一層取り組んでいくそうです。

「将来的にはキャンベル（アヒル）を川で飼ったり、イカダ流しや橋の梁（はり）に鯉のぼりを泳がせるなど、子どもたちや地域の人が川に親しめるイベントができたり、上流地区の人達と法勝寺川サミットができれば。」と生田さんは夢を大きく広げておられました。


きれいになった兼久の川原

小学生の川探検　水生生物調査



日野川今昔

故きを温ねて



鶯なく本山の春（日南町菅沢　白根紀雄氏提供）

＝たくさんの人々の協力で、菅沢ダムが完成＝

今、水を満々と貯え、洪水調節と下流に水の補給を行っている菅沢ダム「日南湖」の湖底には、かつて本山、中原を含む5集落からなる菅沢地区が有り、33戸148人（昭和39年4月）の生活が有りました。

春には牛を使っての田起し、近所手伝っての田植え、秋には収穫を祝う祭り、炭焼きの煙など、昔の農村の姿がそこにはありました。

古来から奥日野地方は、製鉄事業が盛んな土地で、特に菅沢ダムがある印賀川流域は良質な砂鉄を産出し、印賀鋼の名は、古くから知られていました。

明治、大正にかけて盛んに行われていた製鉄も昭和に入るとすたれ、タタラ跡を残すのみと菅沢ダム工事報告書には記しています。



新緑もえる中原（日南町菅沢　白根紀雄氏提供）



掘削が始まったダム地点（日南町菅沢　宮本宏己氏提供）

現在の菅沢ダム

ひのがわ
食物図鑑

第３回
夏の「味」


鰻

「鰻料理」

夏のスタミナ食として万葉の頃から親しまれてきた鰻。一年中で最も暑いとされる土用の丑の日に鰻を食べる習慣は江戸時代に始まりました。鰻は良質なタンパク質やカルシウム、ビタミン類がたっぷりと含まれる栄養の宝庫。また「目のビタミン」とも呼ばれ、ガン予防にも効果があるとされるビタミンＡは豚肉や牛肉のなんと160倍も含まれています。老化防止や成人病に効くビタミンＥは牛肉の約10倍、カルシウムは牛肉や豚肉の約70倍。さらに頭の働きがよくなると話題になったＤＨＡ（ドコサヘキサエン酸）も豊富です。まさに夏バテや育ち盛りによく、また美容食としてもぴったりの食材なのです。

鰻のユニークな生態から、生まれた言葉もいくつかあります。鰻は途中で崖や滝があっても、身体をくねらせて登ることから物価・温度などが見る見るうちに上昇する状態を「鰻上り」と表現するのです。また、石の穴などに住むことから、間口が狭くて奥行の深い住居を「鰻の寝床」と言うようになりました。

昨年11月に移転オープンした日南町霞の井谷旅館のご主人井谷武さんとご子息の井谷豊さんにお話を伺いました。

「日野川の鰻漁シーズンは６月から10月ごろ。以前は川に鰻籠を仕掛ける漁が一般的でしたが、現在、鳥取県では鰻の籠漁が禁止され、つけ針での漁が行われています。つけ針漁は、５～６mのつり糸に１m間隔で針をつけ、重しをつけて一晩置いておく漁法。しかし、餌となるドジョウが減少し、それにつれて漁をする人も少なくなってきています。」

ここの旅館では夏から秋にかけて鰻の会席料理が人気を集めています。皮から骨まで鰻の全てを使った料理の数々は目にも鮮やか。スタミナ抜群の鰻料理を味わうことができます。

◆取材協力
井谷旅館　0859－82－0050


鰻の会席料理


日野川の清流


鰻籠


ドジョウ籠



日野川フォトコンテスト入賞作品　一般Ｂの部「清流　下蚊屋」橋谷　俊二さん
江府町下蚊屋（本谷川）

水辺のウオッチング

－表紙写真　「清流　下蚊屋」－

７月に入ったとはいっても、清流は身の凍るような冷たさ。全身を水にひたした子どもたちは、声にならない叫び声。でも、どの顔もはじけるような笑顔。夏の太陽をいっぱいにあびて、きらきらと若あゆのように水しぶきをあげていた。

日野川流域ものしり手帳

日野川、もの知りさんに聞いてみよう・7

魚道（ぎょどう）

魚道と言っても、どんな物なのか、なかなか思いつかないかもしれません。

みなさんが、川辺を歩いているとコンクリートや鉄のゲートなどの構造物で川の流れをせき止めているようなものを見かけませんか、これは堰（せき）と呼ばれるもので川の水を利用するために作られたものです。この堰をよく見てみると両側もしくは片側に階段のような形で、水が流れている道に気づいたことはありませんか？

ここを魚達が行ったり来たり”できる道ということで「魚道（ぎょどう）」と呼んでいます。

人が川の水を利用するために作った堰を魚達は飛び越えることができないため、そこに棲む魚達は棲む場所が制限されたり、また、アユやサツキマスなど川を“のぼったり、”くだったりする魚達は川の行き来ができなくなります。

そこで、障害物となっている堰があるところでも魚達が“のぼったり、”くだったり“できるように考えられ、造られたのが「魚道（ぎょどう）」です。

魚道自体は、古くから考えられ作られてきましたが、現在は、魚の特性、泳ぎが速いもの、遅いもの（蟹など）など、いろいろな種類の魚をできるだけとおり易くする為の研究が重ねられ、より自然にやさしいものが作られてきています。



魚道（日野川堰）

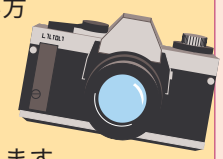
第４回　日野川フォトコンテスト作品募集!!

日野川の新たな魅力を写真を通じて再発見する「日野川フォトコンテスト」。

毎回みなさんの力作が多数寄せられ大変ご好評を頂いてますが、第４回目となる今回のテーマは「**ふるさとの川をみつめて…**」です。

豊かな自然に囲まれ様々な歴史を重ねてきた日野川。これを機会にみなさんのふるさとの川を見つめ直して見ませんか？

- **部　　門）** 一般Ａの部 …… 腕に自信のある方
  一般Ｂの部 …… 気軽に参加したい方
  小中学生の部 … 小中学生の方
- **主　　催）** 日野川への想いを語る会
- **受付締切）** 平成１３年１０月１５日
  なお出展作品は未発表のものに限ります。
  作品の著作権、版権等はすべて編集部に帰属します。
- **問い合わせ先）** 国土交通省日野川工事事務所総務課
  TEL（0859）27－5484



INFORMATION イベントあんない

●日吉津村
「第12回日野川まつりイカダレース」
平成13年8月5日
問い合わせ先……役場総務課
TEL 0859－27－0211

●日南町
「日野川源流かっぱまつり」
平成13年8月26日（日）
問い合わせ先……大西満杯事務局
TEL 0859－82－0085

●岸本町
「きしもと“清流まつり”」
平成13年7月20日（金）午前10：00～
問い合わせ先……役場産業振興課
TEL 0859－68－4213

●岸本町
「オールジャパンジュニアトライアスロンin岸本」
平成13年8月18日（土）～8月19日（日）
問い合わせ先……岸本海洋センター
TEL 0859－68－3775

7月7日は「川の日」

7月は七夕があり、河川愛護月間であるとともに水に親しみやすい季節です。

河川とその地域の人達との関わり・歴史・河川の魅力について広く皆さんに知ってもらうために、近代河川制度100周年にあたる平成8年に制定されました。

川・ふれあいホール イベント情報

菅沢ダムの資料展示室「川・ふれあいホール」の展示内容を紹介します。

7月）河川愛護月間
8月）応募ポスター展示

一般の方の作品展にもご利用頂けます。
詳しいことは編集事務局までお問い合せ下さい。

編　集　後　記

ホタルが飛び交う時期となりました。子供の頃には家の周りで捕ってきたホタルを、蚊帳の中に放して、その光を見ながらいつしか眠っていたことを思い出します。

今では、どこでもホタルを見ることは出来ませんが、いつの日かまた昔のようにホタルが飛び交う環境になればと思います。

河川愛護月間にちなんだ、小中学生のポスターを見ますと、そこに描かれている川はごみがあったり、黒っぽい川だったりしています。堤防や海岸の清掃にでるとたくさんのゴミがあり、子供たちは良く見ているなと思わされます。

21世紀は環境の世紀といわれていますが、まずは大人達がそのお手本を示さなければと思います。

田中　利幸

あなたのこころを
GET HEART

「川」について、意見、質問、要望、何でもええけ、便りこしない。待っちょうけんね。

GET HEART
第15号

発行
・日野川への想いを語る会

編集事務局
・国土交通省日野川工事事務所

〒689-3537
米子市古豊千678
TEL（0859）27－5484

